

食品安全委員会の改善に向けた検討に当たっての論点の整理について

- 食品安全委員会の改善に向けた検討を進めるに当たり、以下の資料等を中心に、過去において関係者から寄せられてきた様々な意見等を基に、別紙のとおり、論点を整理した。

【情報源とした資料等】

- ・ 企画専門調査会における議論
- ・ 食品安全モニターの報告
- ・ 食の安全ダイヤルに寄せられた意見等
- ・ 消費者団体等からの意見
- ・ 関係団体との懇談会における議論
- ・ 有識者との懇談会における議論
- ・ 国会議事録
- ・ 消費者行政推進会議、国民生活審議会等における議論

食品安全委員会の改善に向けた検討に当たっての論点（案）

1 リスク評価

(1) 自ら評価

検 討 す べ き 論 点	関係者からの指摘等の要旨	指摘等の情報源
①自ら評価の実施件数及び選定基準・方法を見直せないか。	○実施件数が少ない。 ○過去に基準が設定されていても、ADIがないものなどは積極的に自ら評価すべき。 ○消費者の声をもっと取り上げるべき。	・企画専門調査会 ・国会議事録 ・消費者行政推進会議
②自ら評価案件について、審議計画を明確にできないか。 （評価一般とも関連）	○自ら評価の実施の優先順位が不明確。 ○いつまでに評価を行うのか、目標を設定すべきでないか。	・消費者団体等

(2) 評価一般

検 討 す べ き 論 点	関係者からの指摘等の要旨	指摘等の情報源
①評価要請を受けた案件をもっと迅速に処理できないか。	【改善を求める視点】 ○未処理案件が多い。 ○評価体制を強化すべき。 ○評価に時間がかかり過ぎる。（香料、農薬） 【評価する視点】 ○ポジティブリスト制度導入に際し、食品安全委員会が制度導入に迅速に対応する措置を決めたことにより、リスクを水際で阻止できた。	・企画専門調査会 ・食品安全モニター ・消費者団体等 ・関係団体等
②評価方法や評価内容について見直せないか。	○専門調査会の公開の範囲を広げるべき（メタミドホスの審議の例）。 ○申請者のヒアリングを導入すべき。 ○評価のデータのあり方を見直すべき（申請者データによる審議は疑問。食安委が自ら試験を行うか、検査に立会うべき。）。 ○無理に一つの評価結果に導いていないか（「評価できない」、「少数意見の併記」があってもよい。）。 ○もっと国際基準や外国機関の結果を尊重すべき。	・消費者団体等 ・関係団体等 ・食の安全ダイヤル
③過去の評価結果を最新の知見で見直すシステムを取り入れられないか（(1)の①の関連）。		・企画専門調査会
④審議計画を明確にできないか（(1)の②の関連）。	○ポジティブリスト制度に係る評価の期限目標の設定。	・消費者団体等

2 リスク管理措置等への関与（食品安全モニター、食の安全ダイアルを含む）

検 討 す べ き 論 点	関係者からの指摘等の要旨	指摘等の情報源
(1) 勧告権・建議権等 ①関係各大臣への勧告権、意見具申権が活用されていないのではないか。 ②関係各大臣の施策の実施状況の監視（モニタリング）の機能は十分に機能しているか。	○勧告権を行使したことがない。 ○ポジティブリスト制度の実効性の検証をすべき。 ○リスク管理機関への働きかけをもっと積極的に行うべき。 ○リスク管理部門にもっと働きかけを行うべき（指摘は食品偽装事件に関連したもの）。	・ 食品安全モニター ・ 食の安全ダイアル ・ 消費者団体等 ・ 消費者行政推進会議
(2) 食品安全モニター ①モニターの活動内容をもっと改善できないか。	○課題報告の回数を増やすべき。 ○随時報告が書きにくい（形式の改善、食品安全委員会の守備範囲となるとハードルが高い、キーワードを付すべき）。	・ 食品安全モニター
②モニターの資格を見直せないか。	○資格制限を緩和又は撤廃すべき。 ○食品安全基本法に位置づけ、有資格者による質の高い情報提供を目指すべき。	・ 企画専門調査会 ・ 食品安全モニター ・ 食の安全ダイアル
③モニター活動の成果をもっと施策形成に反映できないか。	【改善を求める視点】 ○報告結果はコメントを付され、公表されるに留まっているのではないか。 【評価する視点】 ○食品安全モニターや食の安全ダイアル等での意見収集や意識調査なども行われ、その内容が公表され、見えるようになった。	・ 食の安全ダイアル ・ 消費者団体等
④モニター会議をもっと改善できないか。	【改善を求める視点】 ○モニターが関心を持っている情報の提供や議題がない。 ・ 委員会の立場にたった話だけになっている。 ・ モニターが会議テーマに意見を述べる機会が必要。 ・ モニターが知りたい情報の提供に留意すべき。 ○会議資料は事前配布すべき。 ○関心あるテーマ（ＢＳＥ）の説明時間が不足。 ○開催時期を前倒しすべき（４月又は５月前半）。	・ 食品安全モニター

	○年2回程度開催すべき。 【評価する視点】 ○分かりやすくまとめられた数々の資料を基に講演が行われ、非常に興味深かった。 ○会議に参加して、新たな発見もあり、楽しく学べた。 ○質疑応答の時間も多くとられ、モニターの取組事例の報告がありよかった。こういう取組がリスクコミュニケーションの拡大へつながるのではないか。 ○様々な立場の方の意見が聞け、勉強になる。初の試みの少人数の意見交換はとても有意義。 ○体験談の披露やモニター交流の時間があり有意義。 ○会議では学ぶことが多く、一年ごとに内容も充実。	
(3) 食の安全ダイヤル		
①食の安全ダイヤルに対する国民の認知度を高められないか。		・ 食品安全モニター

3 情報提供

検 討 す べ き 論 点	関係者からの指摘等の要旨	指摘等の情報源
①国民に対しもっと分かりやすい情報を提供できないか。	【改善を求める視点】 ○評価結果等が難しく理解できない。 ○風評被害等に配慮し表現振りに注意すべき（ノロウィルスの食中毒と牡蠣）。 ○懇切丁寧に、分かりやすい情報にすべき（IARCの発ガン性グループ分けの定義なども分かりやすく記載）。 【評価する視点】 ○食品安全委員会から送られてきたノロウイルス食中毒の情報は分かりやすく参考になった。 ○トランス脂肪酸に関するファクトシートの公表の意義は大きい。 ○提供頻度が増え、内容も分かりやすく工夫されるようになってきた。 ○消費者団体への情報提供もきめ細かくなされるようになった。 ○食品安全行政の改革によって、行政がオープンになり、情報が来るようになった。	・企画専門調査会 ・食品安全モニター ・食の安全ダイアル ・消費者団体等
②社会に発信されている不適切な情報に対して、食品安全委員会は反論等をすべきではないか。	○ニュージーランドFSAではメディア情報への反論コーナーがある。 ○根拠が不明確な情報や風評被害を煽る情報には反論すべき。	・食品安全モニター ・食の安全ダイアル ・関係団体等
③情報提供において地方公共団体との連携をもっと図れないか。	○地方公共団体の広報紙に正しい情報を載せてもらうなど、地方公共団体に働きかけを行うべき。 ○地方には複数の経路で重複した情報が来るので整理すべき。 ○妊産婦への最新情報は市町村の保健センターから提供できないか。	・企画専門調査会 ・食品安全モニター ・消費者団体等
④ホームページをもっと改善できないか。	【改善を求める視点】 ○アクセスがもっと増えるようにすべき。見てもらえるように周知すべき。 ○「重要なお知らせ」の更新情報が分からない。 ○重要な情報はトップページに掲載すべき。	・企画専門調査会 ・食品安全モニター ・食の安全ダイアル ・消費者団体等

	○専門的過ぎて分かりづらい。分かりやすい表現にすべき。 【評価する視点】 ○ホームページやメルマガで食品安全行政全体が見える情報提供が行われるようになった。 ○食品安全委員会のホームページは、食品安全に関する情報について、科学的根拠を明確にしながら、理解していく上で重要。リスクコミュニケーションの見地からも重要。	
⑤メルマガをもっと改善できないか。	【改善を求める視点】 ○もう少し庶民的感覚で情報提供をすべき（事件情報等）。 ○難しすぎる。読みにくい。 ○読者をもっと増やす努力を行うべき。 【評価する視点】 ○ホームページやメルマガで食品安全行政全体が見える情報提供が行われるようになった。 ○メルマガを高く評価する中で、食品安全委員会の情報提供のあり方は設立時から見るとだいぶ良くなってきている。	・企画専門調査会 ・食品安全モニター
⑥情報発信手段の多様化をもっと図れないか。	○インターネット上には多様な情報が氾濫しており、一般消費者が必要な情報を探すのが難しい。 ○妊産婦への情報は母子手帳等で提供できないか。 ○情報の入手手段・技術（ＩＴ）を持たない人には、情報が届きにくい。	・食品安全モニター

4 広報

検討すべき論点	関係者からの指摘等の要旨	指摘等の情報源
①食品安全委員会の活動等が国民に十分理解されていないのではないか。	【改善を求める視点】 ○食品安全委員会の存在意義をもっと理解されるようにすべき。 ○リスク評価はどういうものかもっと周知すべき。 ○イギリスのFSAやフランスのAFFSAは、信頼を確保するために宣伝を熱心に行っている。 【評価する視点】 ○4年前に行われた大改革により食品安全行政は劇的によかった。リスク評価とリスク管理の分離が重要なポイント。	・企画専門調査会 ・食の安全ダイヤル ・有識者との懇談会
②国民に対する食品安全の広報にもっと力を入れるべきではないか。	○ポスター、チラシ等による掲示。 ○携帯電話でのサイトの開設。 ○多くの人が目にする新聞・テレビによる情報発信。 ○政府広報の活用。	・食品安全モニター ・関係団体等 ・有識者との懇談会
③マスメディアとよりよい関係を築いていけないか。	○消費者の理解が正しい方向に進むようにメディアと協力すべき。 ○メディアに対する啓発（報道時に間違った専門用語の使用が見られる）。 ○社会部など専門でない記者に、分かりやすく正確に情報提供すべき。 ○メディアに科学的データを提供するなど、支援すべき。	・企画専門調査会 ・食品安全モニター ・関係団体等
④季刊誌をもっと改善できないか。	【改善を求める視点】 ○費用の割に効果が低い。 ○多くの人目に触れるところに置いて欲しい。 【評価する視点】 ○季刊誌は分かりやすい文章で親しみやすい。内容も身近なものである。	・食品安全モニター ・消費者団体等
⑤DVDをもっと改善できないか。	【改善を求める視点】 ○DVDの活用実態を把握し、今後の参考にすべき。 ○DVDはもっと長期的に配布を続けるべき。 ○食品安全委員会は科学的で偏りのない態度で作成すべき。シナリオの議論や契約内容を公開すべき。 ○多少難しい内容でも、消費者に知ってもらいたい情報は入れるべき（IARCの発ガン性のグループ分け）。 【評価する視点】 ○農薬のDVDはすごく評判がよかった。こういうものをきっかけに、草の根的な広がりができればよい。	・企画専門調査会 ・食の安全ダイヤル ・有識者との懇談会

5 リスクコミュニケーション（意見交換会等）

検 討 す べ き 論 点	関係者からの指摘等の要旨	指摘等の情報源
①食品安全委員会のリスクコミュニケーションをもっと有効に機能させられないか。	【改善を求める視点】 ○自治体の全頭検査が継続しており、全頭検査によって安全性が確保されるわけではないことがほとんど知られていない。 ○リスクコミュニケーション以前の問題として、食の意味、食材や食品の基本を伝えるべき。 【評価する視点】 ○食品安全委員会のリスクコミュニケーションにより、消費者のゼロリスクを求める意識が変わってきた。 ○食品安全フォーラムでは、コーディネーターの方が参加者それぞれの意見をうまく引き出していて有意義な場であった。 ○食品安全行政以前とは雲泥の差で、ほとんどの会議はオープンになり、風通しがよくなった。	・食品安全モニター ・食の安全ダイアル ・消費者団体等 ・関係団体等 ・有識者との懇談会
②リスクコミュニケーションは一部のひととの間のものに留まっているか。	○意見交換会の参集範囲を工夫すべき。 ○意見交換会に参加できない人にどのように情報を伝えるか。	・企画専門調査会 ・食の安全ダイアル ・消費者団体等 ・関係団体等
③リスクコミュニケーションをもっと双方向のものにできないか。	○国民の意見が施策に反映されない。 ○常に消費者と行き違っている。	・消費者団体等 ・関係団体等 ・消費者行政推進会議
④食品安全委員会はリスクコミュニケーションでもっと主導的役割を果たせないか。	○関係各省、地方自治体のリスクコミュニケーションで主導的役割を果たすべき。 ○食品安全委員会が生産から消費に至る全般のリスクを監視・助言する役割を担えないか。	・食の安全ダイアル ・消費者団体等 ・有識者との懇談会
⑤消費者に分かりやすいリスクコミュニケーションへ改善できないか。	○評価プロセスや評価結果を分かりやすく伝えるべき。 ○消費者目線に立った分かりやすい説明をすべき。 ○リスクとベネフィットを具体的に説明すべき。 ○消費者等への説明力が足りない。 ○コーディネーターが消費者と科学者とのギャップを埋めるべき。	・企画専門調査会 ・食品安全モニター ・消費者団体等 ・関係団体等 ・有識者との懇談会

⑥意見交換会の開催方法等をもっと改善できないか。	【改善を求める視点】 ○土日にも開催すべき。 ○質疑の時間が足りない。 ○説明会方式、ラウンドテーブル、パネルディスカッション方式など、テーマに応じて工夫すべき。 ○評価途中でもリスクコミュニケーションをすべき。 ○テーマを絞り、回数を多くすべき。 【評価する視点】 ○意見交換会がかなりの回数行われており、このような機会が増えたことは大きな前進。	・企画専門調査会 ・食品安全モニター ・消費者団体等 ・関係団体等
⑦リスクコミュニケーション推進事業をもっと改善できないか。	○リスクコミュニケーターの活躍の場を検討すべき。 ○指導者育成講座の活動を検証し、今後の参考とすべき。 ○企画段階で行政関係者、事業者、消費者の意見を聴くべき。 ○事業のグレードアップをすべき。	・食の安全ダイヤル ・消費者団体等
⑧全国食品安全連絡会議をもっと改善できないか。	○厚生労働省、農林水産省を含めた横断的なものとすべき。	・消費者団体等
⑨リスクコミュニケーション専門調査会の審議内容をもっと改善できないか。	○GMOなど中長期的判断を求められるものについて、事前に関係者との検討をすべき。 ○多様なリスクコミュニケーションを主体的に企画すべき。	・消費者団体等

6 食育（消費者啓発）

検 討 す べ き 論 点	関係者からの指摘等の要旨	指摘等の情報源
①ジュニア食品安全委員会をもっと充実できないか。	【改善を求める視点】 ○地方開催すべき。 ○作文や絵の懸賞をすべき。 【評価する視点】 ○とてもいい取組である。	・企画専門調査会 ・食品安全モニター ・食の安全ダイヤル
②食育をもっと充実できないか。	【改善を求める視点】 ○教科書の書きぶりをチェックすべき。 ○食品安全委員会が「食育」の中で果たす役割が明確でない。 ○食品安全委員会が作成したDVDをもっと教育現場等で活用できるようにすべき。 （食品安全委員会は食育に直接取り組む必要はないとの意見もあり） 【評価する視点】 ○季刊誌の「キッズボックス」は、子どもが興味を持てる記事で家庭で読んでいる。	・企画専門調査会 ・食品安全モニター ・食の安全ダイヤル ・有識者との懇談会
③食の安全に関する消費者教育をもっと充実できないか。	【改善を求める視点】 ○食の安全に関する消費者教育を行う独立した機関が必要。 ○「どうやって守るの？食べ物の安全性」は「ハザード」や「リスクコミュニケーション」の理解をためるのに役立ったので、この冊子の普及を図るべき。 ○施策の効果（政策評価）として「食品安全について正しい知識を持つ国民」をどのように捉えるか検討すべき。 【評価する視点】 ○食品安全委員会の作成したDVDをきっかけに、消費者が自分たちで勉強して、草の根的な広がりができればいいのでは。	・企画専門調査会 ・食品安全モニター ・有識者との懇談会

7 意見・情報の募集（パブリックコメント）

検 討 す べ き 論 点	関係者からの指摘等の要旨	指摘等の情報源
①食品安全委員会は消費者等が意見・情報の募集（パブリックコメント）を出し易くなるようもっと改善できないか。	【改善を求める視点】 ○食品安全委員会のパブリックコメントの内容は難しく、理解できない。 ○専門性が高いままパブリックコメントが行われており、もっと分かりやすくすべき。 ○提出方法や体裁等の面で書きにくく、出しにくい。 ○パブリックコメントに寄せられる意見が非常に少ない。 【評価する視点】 ○パブリックコメントの募集は非常に増え、国民一人ひとりが意見を言う場ができた。	・消費者団体等 ・消費者行政推進会議
②食品安全委員会に寄せられた意見が施策に十分反映されないのではないか。	【改善を求める視点】 ○消費者グループからの意見書が施策に反映されない。 【評価する視点】 ○パブリックコメントに寄せられた意見の概要とそれに対する回答が公表され見えるようになり、前進した。	・消費者団体等 ・消費者行政推進会議
③意見募集等で集まった意見やその回答を業務の改善にもっと結びつけられないか。	○意見募集の意見やその回答をまとめて、リスク評価の改善の参考にすべき。	・企画専門調査会

8 緊急時対応

検 討 す べ き 論 点	関係者からの指摘等の要旨	指摘等の情報源
①緊急時における食品安全委員会の役割をもっと明確にできないか。	○中国産冷凍ギョウザ事案を踏まえた指摘。 ○緊急時における調整役を担うことが大事。 ○食品安全委員会は緊急時に存在感を示して欲しい。	・ 食品安全モニター ・ 有識者との懇談会
②食品安全委員会の緊急時の体制をもっと改善できないか。	【改善を求める視点】 ○こんにゃくゼリーや冷凍ギョウザ事案など、想定外の事案にも対応できる体制が必要。 ○国民が緊急時に相談できる窓口を食品安全委員会に設置すべき。 ○地方公共団体から食品安全委員会に情報が伝達される仕組み、及び食品安全委員会が地方にアドバイスできる仕組みに改善すべき。 【評価する視点】 ○食品安全委員会が計3回にわたり、緊急時対応訓練を行う報道を見てうれしく感じた。今後も訓練を続けて欲しい。	・ 食の安全ダイヤル ・ 消費者団体等 ・ 有識者との懇談会
③食品安全委員会の緊急時における情報発信のあり方を見直せないか。	【改善を求める視点】 ○中国産冷凍ギョウザ事案を目にした意見。 ○健康被害情報を集約・解析し、情報発信する仕組みを整えるべき。 ○もう少し庶民的感覚で情報提供すべき（事故情報等）。 【評価する視点】 ○緊急時の迅速な情報提供が行われるようになってきた。 ○中国産冷凍ギョウザ事件の際、食品安全委員会が関連情報を直ちに出示してくれて、大変ありがたかった。	・ 食品安全モニター ・ 食の安全ダイヤル ・ 有識者との懇談会

9 委員会運営全般

検 討 す べ き 論 点	関係者からの指摘等の要旨	指摘等の情報源
①食品安全委員会の体制（人材面）をもっと改善できないか。	○事務局の強化を図るべき。 ○事務局職員が農林水産省と厚生労働省の出向者が大半である。プロパーを育成すべき。 ○高度の専門性を持つ人材確保が必要。 ○文部科学省や大学に働きかけ、大学の人材を活用すべき。	・消費者団体等 ・有識者との懇談会 ・国会議事録 ・消費者行政推進会議
②食品安全委員会の研究機能を強化できないか。	○リスク管理機関からの独立性を高めるため、独自の研究機関（機能）を持つべき。 ○食品安全委員会が実施したい研究・調査ができる体制をつくるべき。	・消費者団体等 ・有識者緒との懇談会
③食品安全委員会の予算をもっと充実できないか。	○資金面の強化が必要。	・国会議事録
④食品安全委員会委員及び専門委員の選任のあり方を見直せないか。	○委員・専門委員の改選をもっと透明にすべき。役員選考委員制度のようなものが必要。 ○専門委員を選定する際に、国民の意見を反映すべき。 ○食品安全委員会は科学者だけで、消費者の視点が入っていない。 ○消費者の参画がない。消費者が関与することが必要。 ○食品安全委員会の委員に消費者代表を入れるべき。	・消費者団体等 ・関係団体等 ・消費者行政推進会議
⑤食品安全委員会は政策評価（事後評価）のあり方を改善できないか。	○外部の目を入れて厳しく評価すべき。	・有識者との懇談会